



1月15日には2年生が登校してきて、久しぶりに3学年がそろいました。修学旅行明けの2年生は課題考査から始まり、3学期をスタートさせました。1年生は、本日HRの時間を利用してかるた大会を実施。琴の音楽が流れる雰囲気満点の中、私も10句ほど読ませていただきましたが、学年の先生方が札を読んでいきます。生徒たちはあまり興奮することもなく淡々と覚えてきた札をとっていました。4～5人のグループに分かれていたので頭を突き合わせる形で札をとっていました。優勝は2組、

個人優勝も2組中岡君で、体育科が大健闘したようです。お疲れ様でした。

そして1月17日は、阪神淡路大震災から25年目という節目を迎える日です。追悼行事として朝のSHRで私から放送での講話をさせていただきました。私自身、修学旅行中に起こった地震で、神戸に帰ってくるのに必死であったこと、帰ってきたときに学校はどうなるのかと希望が持てなかったことなど毎年この日が近づくといろいろなことが思い出されます。全国からボランティアの方々が駆け付けていただき、避難所運営をお手伝いいただきました。グラウンドにできた仮設風呂のお湯を沸かしてくれたり、救援物資を仕分けしてくれたり炊き出しの手伝いをしてくれたりと本当に避難された方々に寄り添って活動していただきました。そのことで、避難されてこられた方々も少しずつ生活していこうという気持ちを持たれ、元気を取り戻していかれたように思います。生徒の方は、家族が亡くなった者もいて、簡単には立て直しができない状況ではありましたが、その年の3月には普通通り高校入試が行われ、4月からは3学年そろっての学校生活が始まりました。当然避難された方々も学校に残っておられましたので、学校内での共同生活です。貴重な経験と言ってしまえばそれまでですが、実に多くのことを学ばせていただきました。仮設風呂に一緒に入った時には地域の方々の学校への思いを聞かせていただき、炊き出しのお手伝いをすれば共に生活することの大切さを学び、2度とない経験をさせていただきました。私は部活動を頑張ることで生徒たちが自信を持ち、その頑張りを避難されてきた方々に伝えることで元気を出してもらいたいという思いが強く、「自分のできること＝部活動」という気持ちで生徒と一緒にやってきました。避難されてきた方々は一様に「教育活動が制限されて申し訳ない」という気持ちを持たれていたもので、生徒たちにもその思いを伝えつつ、「自分たちのできることに一生懸命取り組む」ことを徹底して言いました。右上の「しあわせ運べるように」の歌は小学校の教員である臼井さんが作詞作曲された歌ですが、神戸市の小中学校では児童生徒全員が学習し、多くの方々の胸に響きました。私もこの歌を聞いたたびに涙が出そうになります。「語り継ぐ」と言われますが、経験のないものが語り継ぐことは難しいです。でも、阪神淡路大震災があったこと、多くの方が亡くなったこと、そこから立ち上がって復興したことを知り、今後どうすべきかを知恵を出し合って考えていくことが語り継ぐことになると思います。毎年のように襲い来る自然災害は、被害を最小限にとどめることはできてもなくすことはできません。被災した時にどうするか、被災地域に何ができるかなど自分たちのできることをしっかりと考えることができるように、この機会に日々の生活を見つめなおしていきましょう。

先日加東市の方が来られ、オリンピック聖火リレーの件で本校に依頼がありました。聖火を持って走る方のサポートと、市役所前でのイベント参加です。詳細はこれから決まってきますが、一生の思い出となることですので、協力させていただく方向で話を進めていきたいと思っております。生徒の皆さんよろしくお願ひします。

しあわせ運べるように(神戸オリジナルバージョン)

作詞・作曲 臼井 真

一、  
地震にも 負けない 強い心をもって  
亡くなった方々のぶんも 毎日を 大切に 生きてゆこう  
傷ついた神戸を もとの姿にもどそう  
支えあう心と 明日への 希望を胸に  
響きわたれ ぼくたちの歌  
生まれ変わる 神戸のまちに  
届けたい わたしたちの歌 しあわせ 運べるように

二、  
地震にも 負けない 強い絆(きずな)をつくり  
亡くなった方々のぶんも 毎日を 大切に 生きてゆこう  
傷ついた神戸を もとの姿にもどそう  
やさしい春の光のような 未来を夢み  
響きわたれ ぼくたちの歌  
生まれ変わる 神戸のまちに  
届けたい わたしたちの歌 しあわせ 運べるように  
届けたい わたしたちの歌 しあわせ 運べるように